

法華寺だより



秋季彼岸会法要

合掌の心とお題目で！

お釈迦様は、物事に執着せず偏りのない清らかな心（中庸）で生活することを大切にされました。

それで日本の仏教では、昼夜の等しい春分と秋分を中道の象徴と受け止め、お彼岸としました。

この世（此岸）で生活している私が、あの

世（彼岸）のご先祖様の遺徳を偲ぶのが彼岸なのです。「ご先祖」とは言っても、私が知っているのは亡き父母と祖父母くらい。でも、それ以前に顔も名も知らない祖先がいたことだけは確かです。

どのような人であったかは分からなくても、命のリレーがあつたのです。どこかで欠けていければ、現在の私はなかつたのですね。

ご先祖様に感謝と報恩の祈りを捧げましょう。南無妙法蓮華經

文殊

「もんじゅ」 文殊師利とつとして称するのが正確なそうです。智慧を司る菩薩と知られています。

仏教語

暮らしの中の

相談すれば良い知恵が浮かぶことをたとえて

「三人寄れば文殊の智慧」等と言うが、現実にはなかなか期待外れとなることが多い。

※ さだまる新書

「仏教語散歩」より

二の仏陀、諸菩薩の智母として尊敬されたと思われる。一般には、汚れなき仏の智慧

いざ挑戦 蓮検定

【二級 その⑬】

日蓮の思想と行動を「余輩は我が国の宗教歴史史上、日蓮と比すべき者あるを見ず」と述べた人は、

- 1 .. 吉田松陰
- 2 .. 高山樗牛
- 3 .. 内村鑑三
- 4 .. 矢内原忠雄

降誕八百年慶讃和讃(四)

★世の中の移り変われど 信仰は

八百年の

御恩 実らす

【北海道南部和讃研究会作詞】

時の移り変わりにつれ忘れ去られる事柄も幾つもある。

しかし、本物は人々の心から心へ繋がる。時代の流れの中でそれなりの変化はあっても、中心軸は変わらない。聖人の教えもその一つ

山崎愚考

ご案内

九月

一三日 行学会、和讃練習
二三日 秋季彼岸会法要 バザー

今年もやります

お彼岸バザー！！
恒例野菜の格安販売
やきとり トウキビ
ソフトクリームなど

心といのちの相談所
老若男女幾つになっても悩
みや心配事の絶えないも
の
..... ご来所やお電話を.....

今月の聖語

だいぎやく
大逆なれども

ざんげ
懺悔すれば

つみき
罪消えぬ

【懺悔は信仰の根本】

信仰の根幹は自らを省みることです。日々犯している罪、知らず知らずに他人を傷つけているかもしれない。それが私達。法華經の信仰は、懺悔に始まり懺悔に終わるおしえです。お題目は懺悔です

「光日坊御書」より

日蓮聖人御遺文

覚 書
八月

一日より 夏季棚經

五日 寺庭等清掃

十八日 孟蘭盆会施餓鬼法要

祥瑞院妙蓮日澄大姉一周忌

二十三日 帯刑盆法要



一 休 み

●「日蓮宗信行読本」より（拾い読み）●
第六章 生活を導く日蓮聖人のことば

2、蔵の財より身の財すべからず
身の財より心の財第一なり

「経済的に恵まれていても、家族の中に病人がいると心安まらないが、家族皆が健康で笑顔で過ごせるありがたさ」このことは、誰しもが分かっていることですが、「蔵の財」をもとめてあくせくと働き続けるのが世間一般です。
この「心の財第一なり」というお言葉は、日蓮聖人

「奉仕」感謝

- ☆真夏の太陽の下での環境整備ご苦労様でした
- ☆布薩会と婦人会様 法会の諸準備等々
- ☆☆

法華經名句私撰

（授学無学人記品第九）

あなん じようぎようたもん

阿難 常樂多聞

が じようこんししようじん
我常勤精進

松本慈恵師の解説参照

阿難は常に多くの法を聞くことを願い、私は常に精進に努めていた

仏教では、「学が有る」とは、まだまだ学ぶことがあること。「無学」は、もう学ぶものが無いという意味になる。
あなたは「無学」ですか



が四条金吾（鎌倉幕府の江馬氏に仕えた武士）に宛てた手紙の一節です。
四条金吾は、自分の生命や財産を惜しまずに日蓮聖人の教えを守ろうとしました。立派な人間となるために法華經を実践して、生命や財産をも捨てたのでした。それは心の財を積み、仏教の目的である「仏になる」ことを目指したのです。
一見大変なことのようにですが、身を粉にして家族等のために日々努めているではありませんか。ボランティア活動に励んでいる方もたくさんおられますね。勿論、お寺参りも様々な功德がありますよ。

参照・引用

- ※日蓮聖人聖語カレンダー
- ※「日蓮検定」
- ※「日蓮宗信行読本」
- ※「法華經名句辞典」松本慈恵
- ※日蓮宗新聞 その他

編集後記

◆今年も孟蘭盆会施餓鬼会法要は多くのお上人様が参加し厳修◆引き続き前住職夫人の一周忌も多くの檀信徒と共に執り行われ◆在りし日の夫人を偲んだ◆「ただ一人遠忌事業を説き歩く病の重きを知りありしに」◆前住職を偲んだ夫人の歌も和讃で朗唱◆合掌◆

◆◆◆
◆山崎記◆